

香は仏教の儀式で用いられ、仏前を清め邪気を祓うと信じられてきました。平安時代には香を焚きしめ、うつり香を楽しむことがが貴族の間に広まります。そして香を鑑賞する寄合が茶や花とともに始まり、やがては香道となっていきます。香を聞くために用いる道具を香道具といいます。香道具は多様ですが、なかには蒔絵香合のように本来の用途を離れて合子として愛好され、江戸から明治期には海外に輸出されたものもあります。ここでは当館の所蔵・ご寄託の作品から香合・香箱・香炉など香に関わる器物を展示いたします。

〈中国の香炉〉

中国では戦国時代（紀元前3世紀頃）から青銅製の香炉の存在が認められ、このころすでに香気で空間を満たし、衣服に薫香をたきこめる習慣があったことがわかります。ここでは「博山炉」と呼ばれる漢代に盛行した香炉を紹介します。山岳をかたどった頂部に透彫りを施し、香を焚くと燻煙が立ちのぼり、あたかも仙山に霊雲がたなびくがごとく深山幽谷の雰囲気を目の当たりにできるでしょう。当時の神仙思想の一端をうかがうことができるばかりか、香を嗅覚だけでなく視覚でも楽しんでいた様子がうかがえ、中国における豊かな香の文化を垣間見ることができる作品です。同様に、龍をかたどった香炉も香煙の発生によって雲気をともなう龍のイメージを再現します。

- |                  |         |               |              |
|------------------|---------|---------------|--------------|
| (1) 青銅透彫 雲気文博山炉  | 後漢時代    | 1-2世紀         | 本館蔵          |
| (2) 緑釉 狩獵文博山炉    | 後漢時代    | 1-2世紀         | 本館蔵          |
| (3) 青銅透彫 龍文提梁香炉  | 三国時代    | 魏 正始8年(247) 銘 | 本館蔵          |
| (4) 青銅金銀錯 怪獸形香炉  | 明時代     | 15-16世紀       | 本館蔵          |
| (5) 青銅 人物鳳凰飾龍把香炉 | 後漢-東晋時代 | 2-4世紀         | 本館蔵 山口コレクション |

〈仏教と香道具〉

仏教の伝来により日本は香の文化と出会います。飛鳥時代（6世紀）のことです。それ以前から銅鏡に代表される漢代の文物が多数流入していましたが、日本が香の文化を受け入れることはありませんでした。インドで生まれた仏教は様々な形で香を利用します。材料となる香木や香辛料はインド・東南アジアや中央アジア産です。香は身・口・意を清め、空間を荘厳し、香を焚いた煙は誓願を届けるものと考えられました。香のためにその用途に応じて様々な仏具が生み出されます。仏を供養するのにもっとも重要な香・華・燭を供えるための香炉・華瓶・燭台の三具足もその代表です。ここでは僧侶が法会に際して手に執る柄香炉と仏前に供える常置の香炉のうち密教儀礼で用いられる火舎などを紹介いたします。

- |                  |                   |                      |
|------------------|-------------------|----------------------|
| (6) 金銅 柄香炉       | 桃山時代・慶長3年(1598) 銘 | 本館蔵                  |
| (7) 金銅 柄香炉       | 南北朝～室町時代          | 14～15世紀 本館蔵          |
| (8) 金銅 火舎香炉      | 室町時代              | 15～16世紀 本館蔵 山口コレクション |
| (9) 彫木漆塗 牡丹文大香合  | 江戸時代              | 18-19世紀 本館蔵 田万コレクション |
| (10) 青磁 袴腰香炉 龍泉窯 | 南宋一元時代            | 13-14世紀 本館蔵 長田捨三郎氏寄贈 |

〈香を楽しむ 香合と香炉〉

桃山時代になると、香合は茶の湯の道具として用いられるようになり、(11)から(13)などのやきものの香合、(21)に代表される蒔絵の化粧道具を転用した錫縁の香合などが数寄者に愛好されました。(15)は室町から桃山時代にかけて日本に滞在したイエズス会の標章をつけた合子です。最後の所有者は香合に用いていたようですが、捻り蓋であることから香合というよりも、何かを収納する器であったと考えることができます。同様のイエズス会の標章をつけた漆器に聖餅箱があることから、携帯用の聖餅箱と考えることもできます。江戸時代の後期になると動物や器物など様々な形状を模したやきものや蒔絵香合が製作され、一部はヨーロッパの人々を魅了し海外にも渡りました。

- (11) 絵志野 連珠文袋形香合 美濃焼 桃山時代 16世紀 個人蔵
- (12) 青織部 はじき香合 美濃焼 桃山時代 17世紀 個人蔵
- (13) 自然釉 伽藍石香合 伊賀焼 桃山末-江戸時代初期 17世紀  
本館蔵 田万コレクション
- (14) 粉彩 人物文菊花形盒 景德鎮窯 清時代後期 19世紀  
本館蔵 ウゲルン・シュテルバルグ氏寄贈
- (15) 銅鍍金 IHS 紋香合 桃山時代 16~17世紀 本館蔵
- (16) 染付赤絵 鶴形香合 三川内焼 江戸時代末期 19世紀  
本館蔵 ウゲルン・シュテルバルグ氏寄贈
- (17) 染付 葡萄文双耳三脚有蓋香炉 三川内焼 江戸時代末期 19世紀  
本館蔵 ウゲルン・シュテルバルグ氏寄贈
- (18) 染付 山水図香炉 亀山焼 江戸時代末期 19世紀  
本館蔵 ウゲルン・シュテルバルグ氏寄贈
- (19) 染付 菊花鈕香合三川内焼 江戸時代末期 19世紀  
本館蔵 ウゲルン・シュテルバルグ氏寄贈
- (20) 染付 狸形香合 男山焼 江戸時代末期 19世紀 個人蔵
- (21) 難波江蒔絵十種香道具 江戸時代後期 18-19世紀 本館蔵 田万コレクション  
聞香の寄り合いを開くための道具をおさめた箱を十種香道具箱とよんでいます。松花堂昭乗の難波江の歌意を蒔絵で表した箱には各種の香道具
  
- (22) 彫漆 栗文香合 清時代 18世紀 本館蔵 田万コレクション
- (23) 蓬萊蒔絵錫縁香合 桃山時代 16世紀 本館蔵 個人蔵
- (24) 蟋蟀蒔絵香合 江戸中期時代 18世紀 本館蔵 田万コレクション
- (25) 梅蒔絵阿古陀形香炉 江戸時代前期 17世紀 個人蔵
- (26) 唐子遊蒔絵香筆筒 江戸中期時代 18世紀 本館蔵 カザールコレクション
- (27) 鶴蒔絵香合 江戸時代後期 18-19世紀 本館蔵 カザールコレクション
- (28) 犬蒔絵香合 江戸時代後期-明治時代 19世紀 本館蔵 カザールコレクション
- (29) 蒔絵卵製香合 飯塚桃葉 江戸時代中期 18世紀 本館蔵 カザールコレクション
- (30) 蒔絵箏形香合 江戸時代後期 18-19世紀 本館蔵 カザールコレクション
- (31) 蒔絵田舎家形香炉 江戸時代後期~明治時代 19世紀  
本館蔵 カザールコレクション